



第四次友愛東南アジア使節団

# 各国での成果を期待

## 合宿研修で万全を期す

第四次友愛東南アジア使節団は  
出来までの諸問題を認めて上に  
外務省シニア局長が駐在する  
大使館在任日本大使館、閣僚官  
事務官、二十一日間の旅行中  
に調査のないようござりつあ  
る。なお、使節団員の国内日程は  
より旅行中の日程は次の通りであ  
る。

★ 国内日程 (出発式)  
二月廿一日 打ち合せ会於本  
部事務所 午後六時  
二月廿二日 使節団合宿研修  
会於日本書院館 午前十一時  
二月廿三日 右同じ

二月廿六日 使節団報告会  
三月一日 観光予定

三月二日 寝泊モニターハウス  
社会活動をしてくる。

三月三日 金棒会依頼宿泊コースセ

レジ、特にマレーシア青年クラブ

マレーシア二月二日午後四時五十五分  
午前九時 翌田選手一行

同 前十時三十分 羽田国際空港  
空港見学 エア・フランス・九五

ラブランブル 同八日までのアラ

マリエア・四月五日便にて羽田空港

マレーシア二月二日午後四時五十五分  
午前九時 翌田選手一行

ラブランブルにて、国际連盟訪問  
会十二周年にあつて開催され

る。この度、「一九六七年七月」

ルウェーランダオ市において

日本青年大会開催する

大会上は、日本青年大会開催する

日本青年大会開催する



猪苗代町は北は磐梯山、南は猪苗代湖の風光明媚なところである。昭和34年若き青年有志によって猪苗代支部結成され、北川登常幹事事(當時)の記念講演が催されたのであった。

翌35年には支部活動のかたわら県内他支部結成を推進しながら友愛山荘の建設を企画し、猪苗代支部が中心となって、この運動を始めたのである。同36年には福島県支部連合会が結成され37年12月に磐梯友愛山荘が落成するまで、支部会員は多忙を極めたのであった。

支部活動として36年に友愛野球チームを結成し、帽子には友愛マーク、胸にはY U A I、それに派手なストッキングにそろいのニフュームで、友愛の普及と親善を図った。このチームの美点は、勝敗にこだわらず、あくまで友愛の精神を發揮して試合をおこなうことであり、この伝統は今も続いている。

友愛理論については、講習会もおこなってきたが、37年には友愛の理論と実践を要約したパンフレットを作り新会員にも解りやすくした。講習会、講演会等の外、時事問題討論会、スキーコースの整備協力、スキーパーク等をねこなってきた。時にはカクテルの講習会をおこない実習のやすさに驚いたものである。

猪苗代支部会員はあらゆる職業のもので構成され、社会の第一線で活躍している優秀なメンバーぞろいである。新会員も続々入会しており、これら若い会員が近い将来に活躍することを期待したい。

【写真は磐梯友愛山荘を腰にそびえる会津磐梯山と白鳥の湖猪苗代湖を望む】

## 組織訪問②

福島県 猪苗代支部

## 友愛支部会館の建設

### 健全な事業を生活の中に

最近は支部活動も幅を広げエネルギーにになっている。

特に猪苗代湖は毎年冬になると数10羽のオオハクチコウがシベリアから飛来する。昨年はため5羽が巣性となり全国的に反響を呼んだが、地元では今冬「白鳥を守る会」を12月16日に結成し、餌をまいたりして白鳥の保護に当っている。12月現在56羽が飛来しているが、猪苗代支部でもこの会に参加し、費用の一部を負担して白鳥の保護に当っている。

今年は磐梯に国立青年の家も2月にオープンとなるので、猪苗代支部はますますその存在価値を高めると同時に、活躍する機会にめぐまれる年になりそうである。

また猪苗代支部では近い将来駅前に事務所兼集会所を建設することを計画中であり、本部の友愛センターより早く実現しそうである【支部長=星健夫】

## 本を贈る運動に礼状

東京支部連合会(会長=柳沢)の岡崎を御寄贈されました。定額(100冊)では、昨年の収益助け合いで御芳賀厚生課長へお届け下さいます。

當初は昨年7月1日付で、

お詫び

希望致しました。

此度送信を御頼みの為に多謝

御厚意致し大慶にて

御厚意致し大慶にて